資料２

# 第６期総合計画重点施策・第２期総合戦略推進管理評価調書の評価方法について

※　①、★、◆、●などの表記は、資料２－１、資料２－２に記載されているものとリンクする形で作成しています。

## １　第６期総合計画：推進管理評価調書【施策（個票）】（資料２－１）

### ①　定量（ＫＰＩ）評価とは

総合計画では、施策の達成状況を把握するため、目標指標を設定しています。これは、重要業績評価指標、いわゆるＫＰＩと呼ばれており、実績値などの数値を測定することで、目標に対する達成状況が把握できるもののことを言います。

### ②・③　定量（ＫＰＩ）評価の「総計」・「戦略」の違い

○　総合計画の各施策で掲げる目標指標については、資料２－１で「空き地情報の公開件数」と「空き家対策事業利用件数」の２つが設定されているように、複数個設定されている場合があります。

○　本町の総合戦略については、総合計画の各施策の中から人口対策に資する施策を抜き出す形で設定しており、施策によっては、その一部を総合戦略として抜き出している場合があります。

○　資料２－１の★があるところに、「戦略ＫＰＩ」という項目があり、「該当」・「非該当」と記入されています。

○　「該当」は、この目標指標が総合戦略として抜き出されていることを、「非該当」は、総合戦略には抜き出されていないことを示しています。

○　②の「総計」は、総合計画の施策として目標指標の達成状況を把握する項目であることから、２つの目標指標の達成度を単純平均した数値を入力しています。

○　③の「戦略」は、総合戦略の施策として目標指標の達成状況を把握する項目であることから、総合戦略に抜き出されていない上段の目標指標の達成度は除き、総合戦略に抜き出された下段の目標指標の達成度のみを入力しています。

### ④　定性評価とは

資料２－１の２ページの事務事業評価は、多額の事業費をかければ、より多くの成果が出るというような性質のものではないように、数値を測定するだけでは、目標に対する達成状況が把握できないもののことを言います。

### ⑤　定性評価である事務事業評価の総平均

○　定性評価は、数値で測定できないため、第５期総合計画の事務事業評価については、文章でその成果等を記載する形で行っており、その達成状況が見えにくい状況にありました。

○　このため、第６期総合計画の評価からは、「評価の見える化」を目指し、定性評価ではありますが、評価結果の数値化を目指したところであります。

＜裏面に続く＞

○　その評価基準が、資料２－１の３ページのとおり「妥当性・有効性・効率性」の３項目からなるもので、その評価結果の総平均が、資料２－１の２ページの最下段の数値（複数ページある調書については最終ページの数値）となり、その数値が資料２－１の１ページ目、⑤に転記される形となっています。

**⑥　総合計画評価・⑦　総合戦略評価**

○　⑥「総合計画評価」は②と⑤の平均値、⑦「総合戦略評価」は③と⑤の平均値ですが、以下の理由により単純平均ではなく、加重平均としています。

○　目標指標は、農業分野を例にとると、効率的かつ効果的に各種事務事業を実施できたとしても、気象条件により大きく目標を下回る場合があることに加えて、この施策ごとの目標指標のほか、基本目標でも目標指標を設定しており（資料２－２のとおり）、単純平均にすると、基本目標や全体としての評価の際に目標指標の影響が高くなってしまうことから、目標指標と事務事業の評価が同程度となるよう、定量（ＫＰＩ）：定性（事務事業）＝１：２のウエイトで評価することとしました。

【計算式】　（３．０（③）＋４．４（⑤）×２）　÷　３　＝　３．９（⑦）

**２　音更町第６期総合計画重点施策・第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略：推進管理調書【集計表】（資料２－２）**

○　この調書は、◆や●、⑤などのとおり、資料２－１の調書の数字を転記することで、基本目標で掲げる施策の目標指標や事務事業評価の集計・総括を行い、基本目標としての全体の評価結果を取りまとめたものです。

○　Ⓓの計算方法

Ⓐのとおり目標指標が基本目標においても設定されていることから、加重平均により計算しています。

＜加重平均のウエイト＞

Ⓐ：Ⓑ：Ⓒ　＝　１：１：２

※　Ⓐ：基本目標の目標指標の達成度（２つあるので、その平均値）

Ⓑ：目標指標の達成度の全施策の平均

Ⓒ：事務事業評価結果の全施策の平均

○　Ⓓの計算式

（（5+1）÷２【Ⓐ平均】＋４．３０【Ⓑ】＋４．９１【Ⓒ】×２）÷４＝４．２８【Ⓓ】